

公開シンポジウム

人口減少時代の災害に強い まちづくり、インフラに ついて考える

2011 年東日本大震災、2024 年能登半島地震の経験を経て、少子高齢化の進む地域においては従来の「災害前に戻す」災害復興の在り方に課題が生じています。本シンポジウムでは、人口減少という現実を見据えたうえで、地域に最適な復興後のイメージと将来像を災害発生前に議論し策定しておくことの重要性や、災害の有無に関わらず描く未来の地域のグランドデザインの在り方についてご講演をいただき、議論を行います。

日時：

令和 8 年 (2026 年)
8 月 17 日 (月)
13:00 ～ 17:40

場所：

日本学術会議講堂＋
ZOOM ウェビナーによる
ハイブリッド開催

主 催：

日本学術会議 土木工学・建築学委員会
複合災害と人口減少時代の建築・都市・
地域分科会、インフラレジリエンス分科会

後援：

日本建築学会 土木学会

参加費：無料

定員：300名（日本学術会議会場 100 名）

申込方法：右フォームより申し込みください

<https://forms.gle/GhfXBCMKh2vGtnR59>



プログラム

主旨説明：多々納裕一（京都大学教授） 13:00-13:10

基調講演： 2011 年東日本大震災後の復興の経験とこれからの事前復興のありかた
13:10-13:50 姥浦道生（東北大学教授）

第 1 部：人口減少地域のまちづくりと長期計画のありかた 14:00-15:15

- 14:00 歴史的視点より見た地方創成戦略：目黒公郎（東京大学教授）
- 14:15 能登半島地震・豪雨災害の復興経験から：片桐由希子（金沢工業大学准教授）
- 14:30 法学から見た土地所有・利活用と公共の利益：西希代子（慶応義塾大学教授）
- 14:45 「避難しないで済む」地域の建築耐災害性能の担保と方策：久田嘉章（工学院大学教授）
- 15:00 過疎地における生活交通確保の課題とその方策：松尾美和（神戸大学教授）

第 2 部：人口減少地域のインフラ計画と維持体制のありかた 15:25-16:40

- 15:25 人口減少下のインフラマネジメントの課題とその対処法：小林潔司（京都大学特任教授）
- 15:40 越境しあうインフラガバナンスを実現するために：高橋良和（京都大学教授）
- 15:55 インフラ健康診断書 2024 から見えるインフラの現状と課題：中村 光（名古屋大学教授）
- 16:10 少子高齢化時代のインフラに求められる機能とは：松田曜子（京都大学准教授）
- 16:25 持続可能なインフラマネジメントの実現に向けて：大西正光（京都大学教授）

第 3 部：パネルディスカッション 16:50-17:30

まとめ：竹内 徹（東京科学大学名誉教授） 17:30-17:40